

目次

- ① 出かける前に—
秩父事件とは ……………7
秩父地方の自然とくらし
◆秩父事件とは
- ② 秩父自由党のふるさと
日野沢 ……………12
フィールドワークガイド
◆秩父自由党員名簿
◆村上泰治／新井チヨ／宮川津守
- ③ 最も早く動いた—
上州日野谷 ……………19
フィールドワークガイド
◆群馬と秩父事件
◆小柏常次郎／新井多六郎／新井貞吉
／遠田宇市
- ④ 困民党たつ—
風布組の人々 ……………26
フィールドワークガイド
◆大野福次郎／石田造酒八／大野苗吉
- ⑤ 秩父困民党蜂起の地—
吉田 ……………33
《下吉田・阿熊》……………33
フィールドワークガイド
◆秩父困民党役割表
◆伝蔵伝説／飯塚森蔵／田中千弥
- 《石間・上吉田》……………41
石間フィールドワークガイド
◆加藤織平／柿崎義藤／半納の戦い
上吉田フィールドワークガイド
◆困民党トリオ（落合寅市／高岸善吉
／坂本宗作）
- ⑥ 進軍の道—
小鹿野・薄 ……………49
フィールドワークガイド
◆小鹿野歌舞伎／常盤屋／犬木寿作
／宮川寅五郎／宮下米三郎
- ⑦ 無政の郷—
大宮郷 ……………55
フィールドワークガイド
◆地藏院今昔／稲葉貞助の大黒柱／
秩父困民党無名戦士の墓
◆柴岡熊吉／田代栄助
- ⑧ 政府の軍隊派遣—
皆野・三沢 ……………62
フィールドワークガイド
◆蓑山／新井周三郎／女部田梅吉／
荻原勘次郎／皆野本陣の解体

- ⑨ 軍隊との激突—
野上・金屋 ……………69
フィールドワークガイド
◆金屋戦争／木村九蔵
- ⑩ 新たな出発となった—
矢久峠・山中谷 ……………74
フィールドワークガイド
◆秩父・群馬・長野の接点となった
山中谷
◆黒沢円蔵、茂木賀内と謎の電報／
中沢鶴吉と新田騒擾事件
- ⑪ 最後の戦い—
大日向・東馬流 ……………80
フィールドワークガイド
◆大日向村開拓団
◆伊奈野文次郎／早川権弥／菊池貫平
／井出為吉
- ⑫ 全国各地に見られる困民党員の足跡—
再起をめざして ……………86
◆井上传蔵／島崎嘉四郎
◆全国地図
◆秩父事件処分一覧
- ⑬ 文書は語る ……………93
- ⑭ 復権と新たな研究・顕彰
をめざして ……………96
◆秩父事件記念碑一覧
- ⑮ 秩父事件関係年表 …101
- ⑯ もっと秩父事件を知りたい人に
……………106
◆文献案内
- ⑰ フィールドワーク便利帳
……………109
◆市町村役場・教育委員会案内
◆図書館・博物館・資料館
◆観光情報・ガイドブック
◆宿泊
◆東京からの電車案内

困民党たつ

④ 風布組の人々



フィールドワークガイド

この地風布（ふうっふ）は隣村金尾（かなお）とともに風布組をつくり、全軍蜂起の前日1884（明治17）年10月31日から、組織的抵抗が終わる11月9日まで、事件全過程で終始村人の姿を見ることができる稀有の村である。

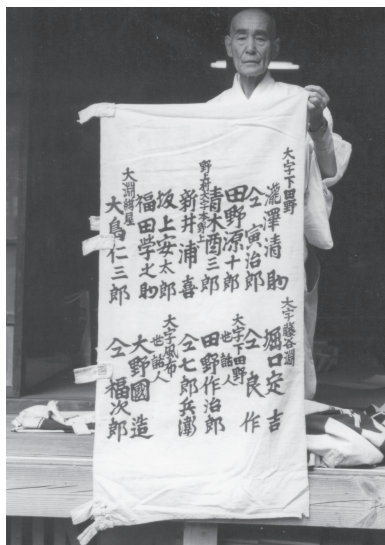
当時は風布村は89戸、金尾村は62戸の村であった。

現在は、金尾村は大里郡寄居（よりい）町に属している。風布村は寄居町と秩父郡長瀨（ながとろ）町に分けられた。現寄居側に西沢・中組・下組・釜伏（かまぶせ）の耕地が、現長瀨町側に大鉢形・蕪木（かぶらぎ）・阿弥陀谷・植平の耕地がある。

■最後まで戦いぬいた金尾の人々

「あそこのじさまは本家だけに、責任を感じて信州の方まで行ったつうね」「あそこは参加したけど、うまく逃げおおせたそうで」「花輪喜平さんは、警官に捕まるんが、我慢できなかつただんべえ、捕まる寸前に井戸に身を投げたんだと聞いてるよ」

こんな言い伝えを残す金尾は、隣村の呼び掛けに応じて事件に参加している。10月29日、伝蔵院に集まった人々は、風布村が蜂起すれば武器を持って参加することを申し合わせ



事件参加者の名が染め抜かれた祭礼旗

た。蜂起の中で多くの戦士を生み出した。兒玉金屋の戦闘ののち自死をはかった**新井助三郎**、負傷した花輪辰五郎・新井小四郎、信州東馬流（ひがしまながし）の戦闘に参加した**田島倉次郎**・桑原定八兄弟、**新井三四郎**、柴崎才次郎らがいた。

最後の東馬流まで進む三四郎は、「旗持ちが一番に進まなければ後のものが進まない」といわれ、「金尾村」と記した旗を持って先頭を歩いた。このような農民たちによって秩父事件は支えられていた。

①6 もっと秩父事件を知りたい人に

文献案内

◆概説書

- 井上幸治『秩父事件』中公新書（秩父事件を自由民権運動の最後にして最高の形態と評価。適切な秩父事件入門書）1968
- 井上幸治『完本秩父事件』藤原書店（著者の秩父事件研究の集大成）1994
- 中澤市朗『改訂版自由民権の民衆像』新日本新書（秩父事件の全貌と事件顕彰をあわせた入門書）1996
- 江袋文男『秩父騒動』大和学芸図書（戦後初めての秩父事件通史）1981（初版 1950年、再版 1956年、いずれも秩父新聞出版部）
- 浅見好夫『秩父事件史』言叢社（前書の完全版）1990
- 秩父事件研究顕彰協議会編『秩父事件—圧政ヲ変ジテ自由ノ世界ヲ』新日本出版社 2004年（集団討議を重ねて執筆され、事件後まで記述し初心者にもわかりやすい）

◆資料集

- 小野文雄・江袋文男監修『秩父事件史料』（全6巻）埼玉新聞社 1971-79.
- 井上幸治・色川大吉・山田昭次編『秩父事件史料集成』（全6巻）二玄社 1984-89
- 井出孫六編著『自由自治元年』現代史出版会（教養文庫）1975
- 埼玉自由民権運動研究会編『埼玉自由民権運動史料』埼玉新聞社 1984

◆写真集

- 清水武甲『秩父悲歌』春秋社 1971
- 井上光三郎・品川栄嗣『写真でみる秩父事件』新人物往来社 1982

◆調査・研究書

- 中澤市朗編『秩父困民党に生きた人びと』現代史出版会 1977
- 中澤市朗『秩父事件探索』新日本出版社 1984
- 中澤市朗『歴史紀行秩父事件』新日本出版社 1991
- 新井佐次郎『秩父事件—震源地からの証言』新人物往来社 1979
- 新井佐次郎『秩父困民軍会計長井上伝蔵』新人物往来社 1981
- 戸井昌造『秩父事件を歩く』（三部作）新人物往来社 1978-82